

さん き
燦 輝

NO8

TEL 52-1130

発行責任者 毛塚 信夫

輝石祭

10月28日(土)

約一ヶ月間。それぞれが得意な、または、興味のある分野に分かれて探求した成果を「発表」という形で輝石祭を実施しました。そのスタイルはゼミの内容により様々ですが、それぞれが探求してきた成果を思う存分発揮して一人ひとりが「自ら輝く」一日となりました。



ダンスゼミ



演劇ゼミ (グランドフィナーレ)



和太鼓ゼミ

書道ガールズ
ゼミハンドメイド
ゼミ

ちぎり絵ゼミ

特に、専門的知識や技能が必要なゼミでは、今年も地域のボランティアの皆様にご協力いただきました。更には、昨年度「ステージ発表の音が体育館の後ろには聞こえにくい」事や特設ステージの「フットライトの出力が弱い」という反省がありました。それを改善するために地域のボランティアの皆様からアイデアをいただいたり、物品を借用したりと惜しみないご協力をいただきました。

また、PTAの皆様には、石中汁をはじめ食品の販売から各家庭より寄付していただいた制服や生活用品を低廉な価格で販売していただきました。特に、会長様を始め総務委員会の皆様、各学年の理事の皆様、PTAOBの皆様や当日ボランティアとしてご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。生徒達の振り返りの中から紙面の関係で一つだけ掲載します。

オープニングで、昨年度は司会がどんどん進めて行ってしまうような感じが理解できないうちにすんでいってしまったが、今年度は複数の人で話を進めていたため、期待感が多く持てたし、内容がわかりやすく聞きやすかった。ステージ発表も和太鼓、劇、ダンス、吹奏楽などノロで一人ひとりが活躍できるチャンスが多くあり良かったと思う。オープニング、ステージ発表、展示、フィナーレの全てがしっかりと軸になって本当に苦勞して作り上げたものだと感じた。スケールも内容の濃さもとてもパワーアップしている素晴らしい輝石祭だった。来年はもっと盛り上がる輝石祭にしたい。 2年男子

平成29年度全国学力・学習状況調査（学力調査）結果から

標記学力調査の結果を掲載します。それぞれの教科で分析し新たな課題を設定して、更なる学力向上はもとより生活全般の向上を図っていききたいと思います。下の表は今年度の全国平均の正答率との比較です。

(◎5P以上上回っている。○5P未満上回っている。－同じ。▽5P未満下回っている。▼5P以上下回っている。)(Aは主に知識、Bは主に活用を判断する問題。)

国語	国語 A	国語 B
話すこと、聞くこと	○	◎
書くこと	○	○
読むこと	○	○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	▽	○

数学	数学 A	数学 B
数と式	○	○
図形	◎	○
関数	○	○
資料の活用	○	○

○国語

A問題（主として知識）、B問題（主として活用）ともに正答率は全国、栃木県のそれを上回っている。

特にB問題については全国比+3.8、県比+3と高い。結果から基礎的な学習と発展的な学習の両方で力をつけてきていると言える。しかし、問題のジャンル別では、A問題では特に古典作品の種類を問う問題で正答率が低かった。文学史などを学習する機会を意識的に増やすことや教材の取扱い方に工夫が必要である。また、生徒個人の文学作品の読書量を増やす取り組みが必要である。

B問題では、「調べる内容に合わせて『だれに』『どんな』アンケートをとるか」を問う問題の正答率が低かった。実生活などでは経験していないことが一因であると考えられる。総合的な学習の時間などで多様な相手を想定したアンケートを作るなど、実際の生活に結びつけた学習が必要である。

○数学

A問題（主として知識）、B問題（主として活用）ともに正答率は全国、栃木県のそれを上回っている。

ただし、全体的に活用力に弱い面が見られる。また、等式変形は全国的に正答率が低い問題ではあるが本校生徒も同様である。2変数xとyを含む1次式を1つの変数について解く練習を機械的に行うのではなく、関数や方程式を学習する際に有効な手段として必要な技能であることを改めて指導していくことが必要である。

○なお、本校では学習状況調査の「生徒の自己有用感」の値が例年低く表れており大きな課題と捉えた。そこで、週2回朝の石中タイムの時間に「アサーショントレーニング」を計画して全校一斉で取り組んでいる。ねらいとしては、生徒の「話すこと、聴くこと」のトレーニングを重ねることで「自分の思いを自分の言葉でしっかりと相手に伝えること」「相手の思いをしっかりと聴いて受け止めること」をトレーニングすることで「自己肯定感」を向上させたい。また、全ての教科で能動的に学習を進めるための基盤ともなる能力でもあり、学力の向上にも役立つと考えている。今後も話す題材や目的などの工夫により継続して実施していくことで効果を高めていきたい。

平成29年度とちぎっ子学習状況調査結果から

教科名	国語	数学	理科	社会	英語
正答率	○	▽	－	－	○

アサーショントレーニングとは・・・2人一組（基本的に男女）で向き合い、決められたテーマについて、30秒で「聞き役・話し役」を交互に行う。

○数値的には、どの教科も±1ポイント台の差でありほぼ平均と言える。特に、国語では「読むこと」、英語では「書くこと」の能力が伸びている。また、数学では「図形」「関数」、理科では「身の回りの物質」「大地の成り立ちと変化」社会科では「地理」に課題が見られた。今後、各教科の学習の中で補充、深化を図っていきたい。